

XADO技術によるエンジン処理報告書

PAZ 33205バス： 圧縮圧力が上昇 エンジン分解不要

運輸企業「ロリ・エヴロトランス」・技師長A.I.マラエフ承認・当該車両の運転者およびXADO有限責任会社の代表者が報告書に署名

モルドヴィア共和国・処理期間2007年3月6日～4月4日・報告書2007年4月11日付

製品

エンジン用XADOゲル状
リバイタリザント（摩擦面
再生剤）
「Absolyut+」による潤滑系統の
フラッシング・カーボン除去、
その後1+1+1+2方式で4段階の処
理・潤滑油XADO Atomic Oil
15W-40 SL/CI-4、14 l

処理対象

PAZ 33205バス、
登録番号AA721
5311型ガソリンエンジン・路線運
行中の車両

文書の種類

処理報告書
（事業所の技師長が承認）

機械類

PAZ 33205バス、登録番号AA721
5311型ガソリンエンジン

作業開始時の走行距離

59,036 km

測定項目

気筒別圧縮圧力（kgf/cm²）

エンジンは分解も取り外しも行っていない。処理剤を潤滑系統に注入し、バスは路線運行を継続した。

主な結果

↑ **2.4-5.9 %**

気筒別圧縮圧力、8.5 → 9.0 kgf/cm²；測定値4点中3点で上昇、残りは変化なし

5311型エンジンの気筒別圧縮圧力

気筒	処理前	処理・走行後
第6気筒	8.5 kgf/cm ²	9.0 kgf/cm ²
第7気筒	8.0 kgf/cm ²	8.0 kgf/cm ²
第8気筒	8.5 kgf/cm ²	9.0 kgf/cm ²

測定は、作業開始前と、処理サイクル全体の完了および路線運行での**9,318 km**走行の後に実施した（走行距離計**59,036** → **68,354 km**）。

報告書が示す結果

「ロリ・エヴロトランス」の報告書は、作業を「07年3月6日～07年4月4日の期間、PAZ 33205バス（登録番号AA721）のエンジン潤滑系統にXADO技術による処理を実施した」と記している。走行距離**59,036 km**の5311型エンジンは、分解せず、車両を運行から外すこともなく、潤滑系統のフラッシングとゲル状リバイタリザントによる4段階の処理を受けた。**9,318 km**走行後、気筒内の圧縮圧力は**8.5**から**9.0 kgf/cm²**に上昇した。ピストン・シリンダ部の気密性が回復したのであり、これはエンジン出力と燃料消費量を決定づける要素である。上昇幅の上限はエンジンの定格値である。圧縮圧力がこれを超えて上昇することはなく、摩耗したエンジンでこれに近づくことが到達可能な限界である。これらはすべて、稼働中の車両で処理剤を注入しつつ行った通常の潤滑油の交換によるものである。

XADO

© XADO. 無断複製・転載禁止

本結果は、市内旅客運行で使用されるPAZ 33205バスの5311型ガソリンエンジンに関するものである。他の機械類や異なる条件下では、測定値が異なる場合がある。署名・押印のある報告書の原本は全文を公開しており、ダウンロード可能である。